

戦前の出版検閲を巡る同時代の著作は少ない。
本資料集の刊行は出版検閲を研究する上で大きな意味を持つ。

出版警察史

一検閲・発禁関係資料集



監修・解題 安野 一之
(早稲田大学政経学院現代政治経済研究所研究協力者)

造 本 B6上製 (別巻のみA5並製) 約1,400頁
価 格 76,000円 (配本毎・別巻のみ分売可)

一収録資料

【第一回配本】2021年4月 配本単価 34,000円 ISBN978-4-910363-34-9

第一巻 (448頁)

『出版警察〔(図書出版ノ心得)〕』(山田一隆、文明社、1914年)

第二巻 (168頁)

『実務上より見たる出版法略義 附. 出版関係法令集〔無削除版〕』

(成田総一郎、丸ノ内出版社、1933年)

【第二回配本】2021年10月 配本単価 42,000円 ISBN978-4-910363-35-6

第三巻 (320頁)

『改正出版法並新聞紙法の実際智識』(成田総一郎、自治刊行社、1935年)

第四巻 (176頁)

『出版警察法概論』(生悦住求馬、松華堂書店、1935年)

別巻 (約270頁) ISBN978-4-910363-36-3 (別巻のみ分売可 8,000円)

*解題、総目次

附録資料一、「講義 出版警察」(久保田政周、『警察協会雑誌』36~39号、1903年5~8月)

附録資料二、「現下の出版物取締に就いて」(三島誠也、東京出版協会、1931年)

附録資料三、「出版物を通じて見たる思想界の現状及思想対策概論 其の1・2

(思想研究資料第118・119号) (菅太郎、海軍省教育局、1934年)

<特別附録資料>「図書課事務分担表 (昭和8年1月末日現在)」(内務省官制中ヲ改正ス) 内務省警報局図書課、1933年5月15日)



類縁書のご案内

『内務省納本月報』

一帝国日本の「全国」書誌編成 [全21巻]

編・解題一郡司 良夫
造 本 A5判・上製函・総9,726頁
価 格 399,000円 (各巻19,000円)

[増補改訂普及版]

雑誌新聞発行部数事典
—昭和戦前期 附. 発禁本部数総覧 [全2巻]

編・解説一小林 昌樹
造 本 A5判・並製・総662頁
価 格 22,000円



Kanazawa Bumpokaku
〒920-0867 金沢市長土堀2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111
□書店様へ…ありがとうございます
直接小閣までお申込みください
図版はすべて本書より
価格は税別 052/07/4000

金沢文庫閣 81

出版警察史

一検閲・発禁関係資料集

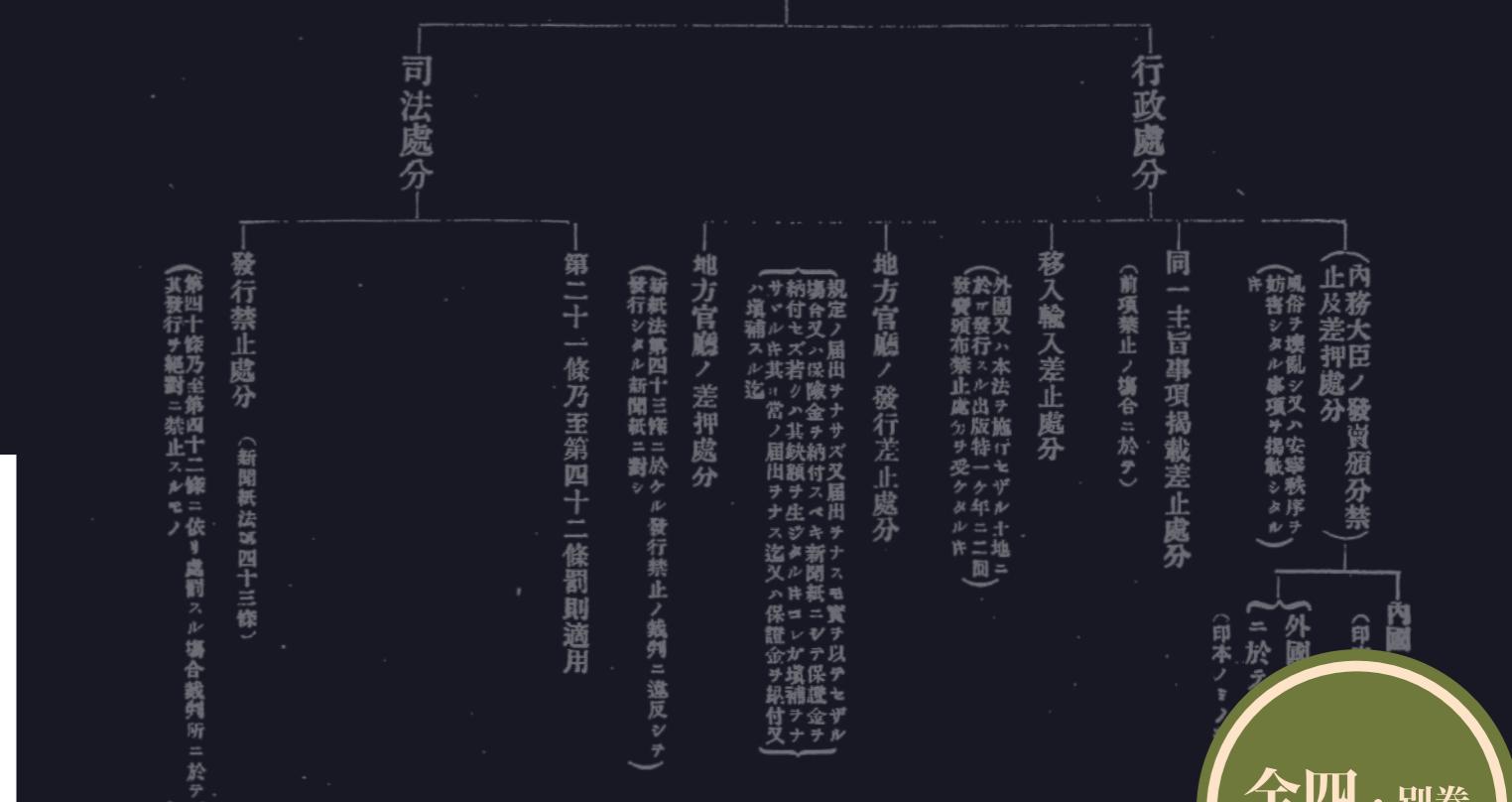
実定法上、明治半ばから昭和20年まで出版法規はほぼ変わらなかったが、

内務省は時に応じて段階的に「行政解釈」を変更する。

法運用の実態を観察しなければ、出版物取締の歴史については把握が困難。

本書収録の大正・昭和戦前期の出版警察・実務参考書を活用すれば、

その時代における出版物取締の変遷や出版警察の法的運用の実態が見えてくる!!



全四・別巻
[編集復刻版]

本書は、出版警察関係者による
業務マニュアル・教科書・実務書であるとともに
出版・新聞メディア人の取締られないための実用書でもあった。

出版物取締をめぐる攻防の最前線が
ここには詰まっている!!

現在でも活用可能な1910年代から1930年代半ばまでの出版警察関係書籍を集めた

執筆者は内務省警保局図書課のエリート官僚や雇（非正規雇用いわゆるノンキャリア）などにわたり、

この時期の出版検閲の実態を幅広く知る上で貴重な手がかりとなる。

『出版警察』

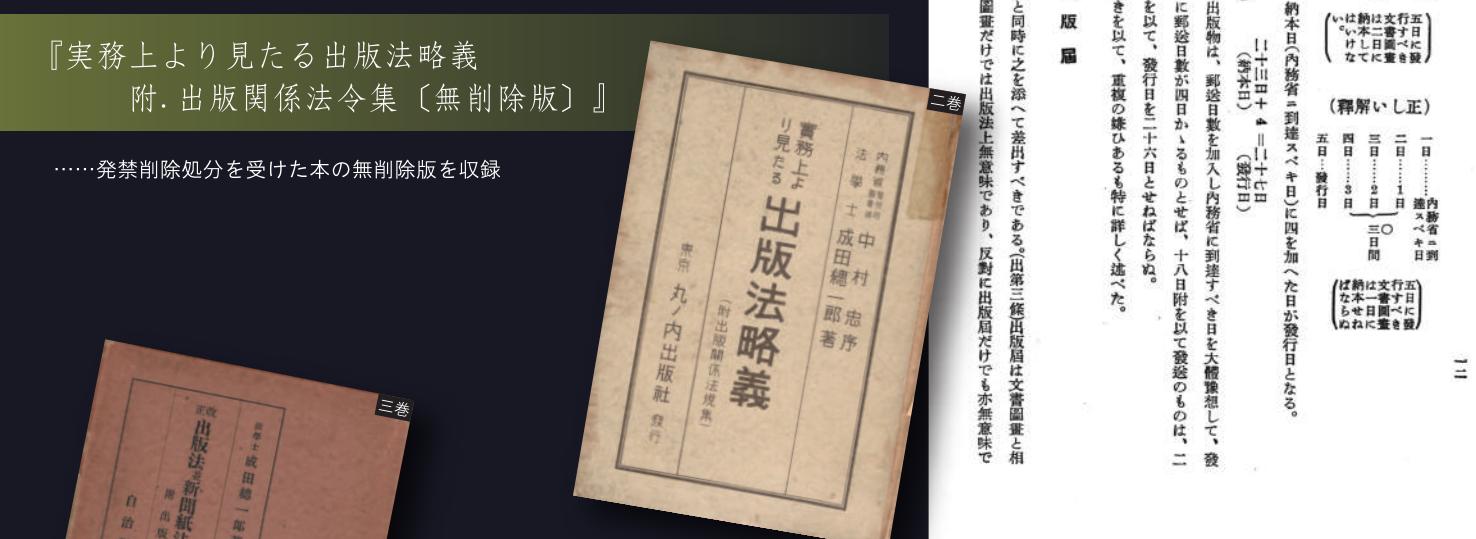
……研究蓄積のない明治末～大正初期の 出版検閲を知る基本文献



『実務上より見たる出版法略義

附. 出版關係法令集〔無削除版〕』

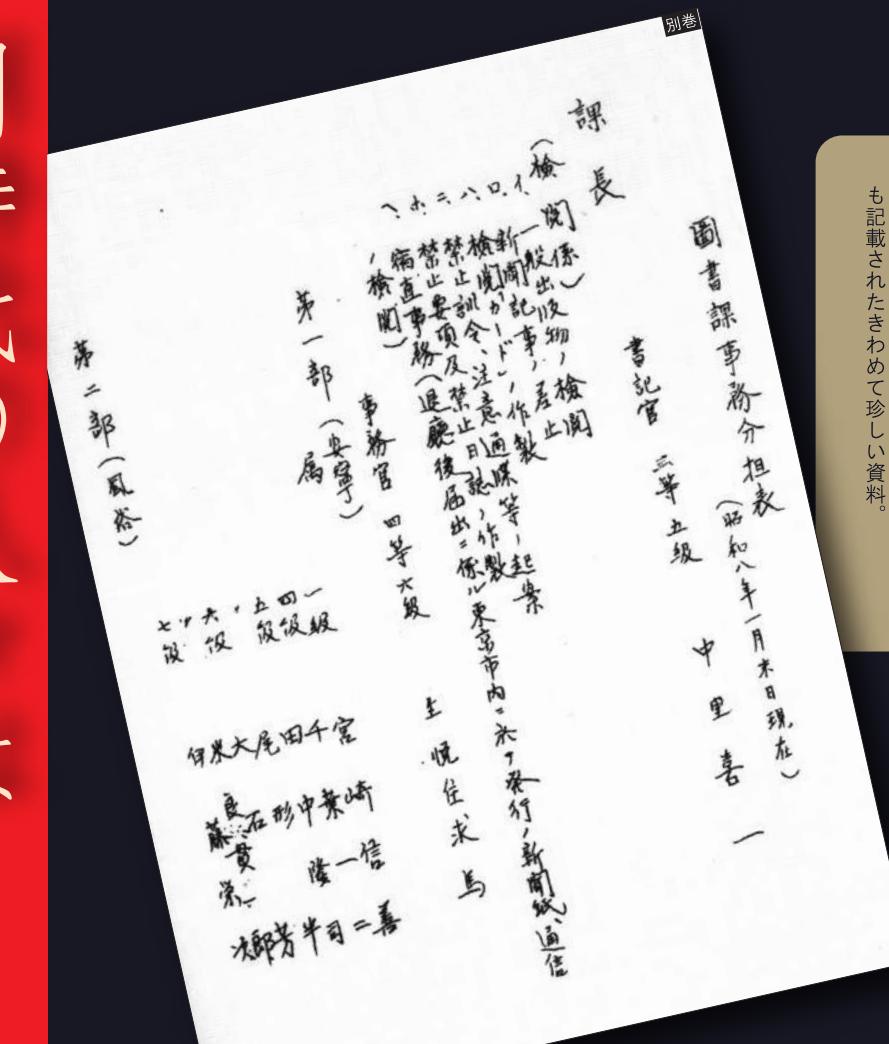
……発禁削除処分を受けた本の無削除版を収録



『改正出版法並新聞紙法の実際智識』

……成田は具体的な手続き方法を詳細に説明しているのに対し、生悦住求馬は出版法でレコード検閲を扱うことの是非を論じ、その延長線上にラジオ放送検閲の取締にも言及しているが、具体的な手続きについては一切触れていない。成田の本は実務者向け、生悦住の本は警察官関係者向けと読者層が明確に違うことが分かる

同時代の人々はどのようにして出版検閲に関する情報を得ていたのだろうか？



著者略歴

『出版警察』

山田 一隆 (1881年、福井県遠敷郡雲濱村生)

小浜中学校卒業後、一年志願兵として入営、第七憲兵隊旭川憲兵隊分隊長、北海道庁警部に転任。警察官練習所を卒業後、内務省警保局図書課に配属。1913年警視総監官房特別高等課検閲係長に転じ、その後早稲田署署長、新宿警察署長を経、朝鮮総督府警察官講習所所長、浙江省警官学校教授、満州国中央警察学校校長、熱河省公署警務厅長まで勤め上げる。

『実務上より見たる出版法略義 附・出版関係法令集〔無削除版〕』
『改正出版法並新聞紙法の実際智識』

成田 総一郎（1903年、秋田県北秋田郡鷹巣町生）
早稲田大学法学部、1929年内務省警保局図書課受付係雇、1940年鷹巣町
大政翼賛会事務局長、戦後は映画館経営などにも携わる



『出版警察法概論』

生悦住 求馬 (いけずみ・もとめ、1900年生)

東京帝大法学部卒、1924年内務省。警保局図書課での勤務は10年間にわたり、典型的なエリートコースを辿った内務官僚。